「辺境としてのオセアニア」を抜け出すことはできるか

文化人類学とオセアニア研究

放送大学兵庫学習センター
客員教授　吉岡政徳

石川榮吉の問題提起

* 1993年「日本のオセアニア学」『日本オセアニア学会創立15周年記念論集』

* 「辺境としてのオセアニア」観の存在
* 日本人自身によるフィールドワークの遅れ
* 研究・教育体制の不備

秘境の地からやってきた仰天ニッポン滞在記

* 2011年~2017年まで11回放送
* 日本におけるホームステイ体験

* ミクロネシア連邦2回、ヴァヌアツ3回、
* パプアニューギニア4回、インドネシアパプア州2回、ブルギナ・ファソ1回

テレビで生産され続ける「秘境・未開」

* 2000年「ワレワレハ地球人ダージャングルクエスト」
* 2002年「あいのり」
* 2005年「世界の絶景100選　南太平洋に輝く神秘の湖・ブルーホール」
* 2015年「仰天ニッポン滞在記」
* 2015年「世界の村で発見　こんなところに日本人」
* 2017年「世界の秘境で日本料理」

文化人類学における「辺境」の価値

* 落穂ひろいとしての文化人類学
* 非西洋世界の中でも「辺境」なオセアニア
* イギリス人類学の先鞭 20世紀初め

コドリントン、リヴァーズ　結社

マリノフスキー　母系、性開放、交換

ラドクリフ＝ブラウン　セクション・システム

→　文化相対主義の発展の場

大理論へのアンチテーゼの場

* 非単系出自論
* ビッグマン、首長制研究　→　新進化主義
* 歴史人類学の登場
* ポストコロニアル人類学の舞台
* 存在論的転回論の出発点
  ＝学問的には意味のある「辺境」
  ＝学問外では辺境はただの辺境＝秘境＝未開

我々の生活と接点を持たない辺境

* 辺境の生活は、大半の日本人にとっては接点を持たない世界＝自分たちの生活に意味ある関心をもたらさない
* Ex.　・パプアニューギニアの伝統文化を知ろう
　　・パプアニューギニアに小学校を作ろう
* 「未開社会」は人類の過去の姿をしているという進化主義的な見方を崩すことができない

何ができるか(1)

* 文化人類学の目的1:「自分たちと異なった価値観に基づいた生活の仕組みを解明」→「過去の世界が描かれている」というイメージに回収
* この目的を一旦棚上げに
* 我々の日常生活との接点がある現代的問題を取り上げる→環境、教育、医療など「近代化」の側面を対象とする

何ができるか(2)

* 文化人類学の目的2：名もなき人々、ごくありふれた通常の生活を送っている普通の人々を対象に、彼らが現実や出来事をどのようにとらえどのように解釈しているのかを、フィールドデータを動員して明らかにする→自分たちとは異なるわけのわからない暮らし→過去の世界イメージへ回収
* この目的を一旦棚上げ
* 普通の人々ではない人々＝エリートを取り上げる

エリートの文化人類学

* 例：ヴァヌアツ共和国のヒルダー・リニ氏
  - ヴァヌアツ最初の女性国会議員
  - 各大臣歴任
  - 反核、女性解放、土着権をもとめて国際的に活動
  - 伝統文化復興運動のリーダー

我々と同時代を生きるオセアニア

* 国家エリートの考える「伝統文化」の解明
  → 伝統と近代の接点を探る
* 我々の生活と接点を持つ現代的側面をテーマに
  ＝過去の世界に閉じ込められたオセアニアの
  イメージを開放
  ＝我々と同時代を生きるオセアニアを描く